

2020年7月じゃおサロン（予告）

日時 7月26日(日) 13:30~15:30

場所 オルタ館2階 オルタリアン

日本の安全と私たちの安心

～治に居て乱を忘れず～



講師 日下部晃志氏（松下政経塾 研修局人材開発部 担当部長/第25期卒業生）

講演内容

今回の講演内容は講師の日下部氏にお任せしておりますので、演題に沿った内容のお話が聞けると思います。下記の講師略歴にもありますように、防衛大学校を卒業して陸上自衛隊入隊、そこでの5年間の経験、その後の松下政経塾における政治・防衛等の研究活動での知見、松下政経塾の卒業生のネットワークを通じての情報等、普段我々があまり触れることのない知識・情報をベースにして、そこに日下部氏独自の考えを加味したお話になると思います。活きのよい若い人の話に耳を傾けるのも新鮮でよいかと思えます。

講師略歴

- 1976年 福岡県生まれ
- 1999年 防衛大学校卒業。陸上自衛隊入隊（陸上自衛隊幹部候補生学校卒）、2002年に第1次東ティモールPKO(UNMISSET)に小隊長として派遣。
- 2004年 松下政経塾へ入塾（2年間）
- 2012年 政治活動から退き、日本を背負う人材を育てたいという信念のもと、松下政経塾のスタッフとして勤務開始。2019年から現職。

事務局だより

1. 会員動向（2020年6月1日現在）

退会者 須藤 洋氏（多摩・田園）

| 湘南 | 県央 | ベイサイド | 多摩・田園 | 計 |
|----|----|-------|-------|-------------------|
| 39 | 37 | 32 | 29 | 137（Eグループ会員：120名） |

2. 連絡事項

1) 新年度運営委員の分担について

5月に代表（大澤輝之）・副代表（大出佳和）・会計（石井武則）は留任が決定しましたが、調整中だったその他の担当については以下の通り決定しました。

総会担当：（正）大出委員、（副）高橋委員

運営委員会担当：（正）石井委員、（副）小坂委員

じゃおニュース・スケジュール表発行担当：（編集担当）今村委員、（掲載担当）竹内委員、
（地域調整担当）土屋委員

じゃおサロン担当：大澤委員、土屋委員

会員管理担当：（正）高橋委員、（副）永井委員

会計担当：（正）石井委員、（副）今村委員、豊永委員

ホームページ担当：竹内委員

業務IT化担当：竹内委員

2) オンライン会議導入の検討状況について

今後の不測の事態を考慮して、竹内委員が運営委員及び監事全員についてパソコン等の保有状況を調査し、6月中に「ZOOM」を利用した1対1でのテストを実施しました。7月には全員同時に接続したオンラインテストを行う予定です。7月の運営委員会についてはオルタ館で実施予定です。

3) じゃおサロンについて

7月は新型コロナウイルス禍が悪化しない限り予定通り実施します。

なお、健康体操は実施しますが、懇親会は安全のため休止します。

4) 地域じゃお活動費等の配賦について

6月末までに納入された年会費の半額、通常総会で承認された本部会計の繰越金の一部、及びじゃおニュース発送経費を各地域じゃお会計口座に7月上旬振り込みます。

会員だより

「じゃお農園」と「健康麻雀（クラブ巳申）」

湘南 大出 佳和

じゃおクラブに入会して約5年が経過しました。老々介護でどうにもならなくなっていた老親サポートや70才まで見通した働き方を模索するということで、50歳代後半で最前線のビジネスから一步退いていたところ、昔の上司からJAVIC（仮想投資クラブ）を紹介されたのが、じゃおクラブ入会のきっかけでした。そんな状況でしたのでJAVICに月1回の参加のつもりでおりましたが、半年もしないうちに「じゃお農園」と「健康麻雀（クラブ巳申）」に参加しておりました。爾来、じゃおクラブは私の生活の中でのウェイトを徐々に高めてきています。特に「じゃお農園」と「健康麻雀（クラブ巳申）」に関しては、100%参加者の立場で楽しませていただいておりますので、今回はこの紙面を借りて世話役の皆さんに御礼を述べたいと思います。

【じゃお農園】

まずは、世話役の増田勝男さん、大場繁好さん、桧垣邦夫さん、いつもお世話になりありがとうございます。おかげさまで、毎回の収穫物は我が家の家計の助けになるとともに、親族や友人へのお裾分けにもなっています。じゃお農園は、3名の世話役のリードで約1,000坪の畑（1号・2号・3号畑）で1年を通して野菜を20種近く栽培しておりますが、連作ができない野菜も多いので毎年の栽培計画の作成はさぞ大変だと思います。内情はよくわかりませんが推測するに、活動日以外にも生育状況の確認を行ったり、天候による中止の判断や栽培計画の修正等の世話役間での打ち合わせも頻繁に行われていると思います。また、年間60～70日の活動日には高齢者の多いじゃおクラブですから、参加者の健康管理や作業の安全等への気配りも大変だと思います。世話役の皆さんのこうしたご尽力があり、参加者（登録は35名程度？/各回20名程度）は、時間に集合して言われた作業をマイペースで行うと、その日の労働に対するお土産として収穫物がいただけるというシステムが長い間維持されているのだと思います。これは本当にすごいことだと感謝しております。

私事ですが、チャレンジ農園も4年目となり、ようやくまともなタマネギ、キュウリ、なす等が収穫できるようになったのも皆さんのおかげだと感謝しています。最近は妻にも褒められるようになりました。

【健康麻雀（クラブ巳申）】

まずは、世話役の石崎玄さん、いつもお世話になりありがとうございます。学生時代は麻雀に熱中しておりましたが、社会人になってからは独身時代までで30年以上も遠ざかっていました。じゃおで麻雀をやっていると聞いて早速石崎さんに連絡をして仲間に入れていただきました。今は月に一度の対戦を非常に楽しみにしております。参加して分かったのですが、月に7～8日の対戦を計画していただいているのですが、毎月20日過ぎに翌月の対戦希望日を登録メンバーへ聞き、月末までに各人の希望を考慮した対戦計画を作成して連絡、その後会場となる雀荘に連絡、対戦が終わると結果の報告を受けてエクセルシートで集計してメンバーに報告、会費の管理を行い、年度末には表彰提案と表彰式の開催とお一人で20余名のメンバーを楽しませていただく段取りを全てやっております。石崎さんがすごいのは、大変だという素振りを見せずに飄々と楽しそうにやっているところですが、私などは、それに大いに甘えてしまっているなあとは思いますが、参加者として月1回の麻雀を楽しんでいます。いづれにしても、私が麻雀を楽しめるのは石崎さんのおかげですので、石崎さんに大いに感謝です。

最後に、「じゃお農園」も「健康麻雀（クラブ巳申）」も、メンバーが減少しつつあります。世話役の皆さんは、メンバー減少に歯止めをかけたいと思っていると推察します。私も参加メンバーの一人とし

てこの活動が長く続くことを望んでおりますので、ご興味のある方は是非とも一度足を運んでいただければと思います。

雑 観

湘南 宇多村 絃一

昨年10月中旬、山口県へ高校喜寿同窓会出席もあり帰省墓参しました。私の東京勤務に伴って家内を神奈川県居住にしたこともあり、この機会にと家内の姉弟親族を招待、一泊懇親会をしました。

翌日、義弟が光市にある、「伊藤公資料館&記念公園」に案内してくれました。伊藤公は光市島田川中流域の出身とは承知していましたが明治時代の建築物があったとは知りませんでした。訪問した日は生憎休館日で外観のみ見学、生家の再現古民家と明治時代に本人が基本設計したルネッサンス風洋館が存在していました。

明治42(1909)年、伊藤公は遠祖(林淡路守通起)の没後300年の法要を行うため、別邸(本邸は大磯滄浪閣)をこの地に建設する様に命じ、同年10月14日に満州(現中国東北地区)へ出発しました。しかし、同年10月26日にハルピンで狙撃を受けて死亡し、完成した別邸を見ることはできませんでした。その別邸が、現在「旧伊藤博文邸」として保存されていました。

この建物の外観を見た時、嘗てどこかで似たものを見たような感じがしました

それは、近くに建立石碑があり、建設監督を命じられたのが当時の県知事「渡辺 融」、建設施工は清水組(現清水建設)それを讀んだとき、なんとなくありかなと思った話です。



伊藤公生家



伊藤公資料館

以前「じゃお湘南ニュース 184号(2011.05.25)」記述・郷里で戦後米国籍の遠戚が購入し、母の実家で管理していた県令の別邸で白亜の洋館があり子供のころ内外を駆け巡って遊んだ。その洋館の造りが似ていたのです。当時のニュースでは何代目の県令だか不明と記述しましたが、前回帰省した時この記事を見たとき中学時代の郷土史研究会にいる後輩が訪ねてきて「九代目官選山口県知事 渡辺 融(1903~1867) 熊本藩士・官僚・貴族院議長・高知県知事・山口県知事で退官67歳から76歳死去まで別邸で余生を過ごしたと思われる。」と教えて貰っていた話でした。

※ 伊藤博文(1841~1909)は、熊毛郡東荷村(現・光市)林十蔵、琴子の長男として生まれました。幼名利助。萩に引越した後、父が伊藤家の養子となった為伊藤姓を名乗り、長じて俊介、博文と称しました。

※ 伊藤公資料館&記念公園は光市観光協会のホームページ <https://www.hikari-kanko.org/>を参照ください。

直したい癖

湘南 大場 繁好

この春に始まった、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい全世界に広がり大きな被害を受けており、いまだに終息の兆しが見えません。感染予防には手洗いが最も大事と繰り返し言われており、その手洗いが大事と言われれば言われるほど、不安になって仕方がないのです。

新聞、雑誌のページを捲るのに指を舐めて捲ることが癖になっているのです。老化現象からくる肌の乾燥なのだろう。何しろ指の乾燥を感じたのは、50代後半の頃だったと記憶しており、周りの友人に聞いても全くならない人もいれば、私と同じと感じている人は大勢います。これは加齢と共になってくるのだろう、何とも致し方無い事と思っていました。捲る動作があれば、つい指先を舐めてしまう、今も続けているのです。さすがに、お金を数えるのには気を付けているのですが、うっかりしているとつい舐めそうになるのです。

スーパーに買い物に行くと、レジ袋を開けるのに苦労している人を良く見かけます。濡れタオル、スポンジなど置いてあるが、この新型コロナウイルス感染症流行以来触りたくないものです。

毎朝の事であるが、新聞を捲るのに苦労しています。舐めずに新聞を捲ろうとするとなかなか捲れずストレスになっているのです。そこで、新聞の端を折り捲りやすいようにするのだが、それでも簡単にはいかない、どうしてこんなにピッタリ重なっているのかと、つい愚痴が出てきます。雑誌を捲るにも同じであり、手元に濡れたものでも置いておけばいいのだが・・・、この変な癖を何とか直したいものです。

私が Jao に入会したのは 55 才

県央 岩崎 通義

地域の福祉活動を活発に行っていた奥様たちの強いあと押しがあって男性だけの集団「Jao グループ」が生まれました。25年が経過しました。藤沢の大きな農家のお手伝いをし乍ら貸していただいた畑で野菜づくりをし、時にはバーベキューを楽しみました。

有志で東ヨーロッパを旅行しました。今や80才となり、石崎 玄さんのもと月1~2回のマージャンをたのしんでいます。おかげさまで元気に日々を過ごしています。

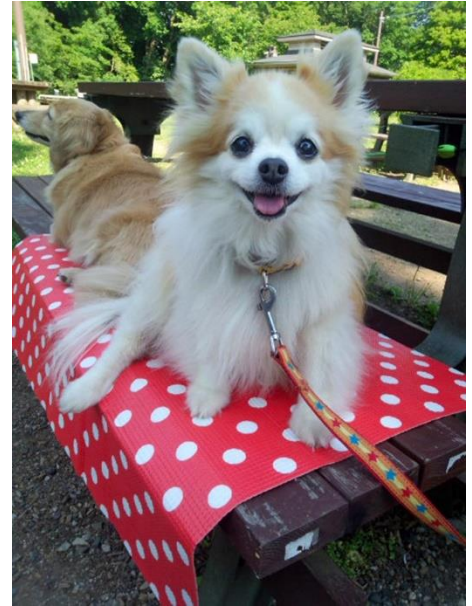
犬の糖尿病看病奮闘記

県央 江上 寛

一昨年の3月に飼い犬のチワワ（当時10歳）が水を頻繁に飲むようになり、しきりに排尿をするようになったので、普通ではないと思い動物病院で診てもらったところ、りっぱな糖尿病ですと言われた。

私は犬でも糖尿病になるんだ！とびっくり。それでもこの時はそれほど深刻には思っていませんでした。

インスリン注射を朝と夕方毎日自宅で打ってください、注射の仕方を教えます、と言われたときには、これは大変なことになったもんだと思いました。インスリンの量を定めるため1~2週間に一度通院して検査を受けてください。と女医さんから優しく言われせつせと病院に通いました。約2か月後にインスリンの量が決まり、朝・夕3単位ずつ計1日6単位打つことになりました。注射は、背中側首の付け根から肩辺りに打ちます。インスリンの液が入った注射器本体（全量300単位）に、毎回替えることができるネジ付き針を装着し、注射器本体の単位量を設定する目盛を、3単位に合わせ、注射器のピストンを押すことによって3単位のインスリン量が針先から出ます。



自宅でインスリン注射を打とうとすると、犬は恐怖を覚えるらしく、キャンキャン鳴いて噛みつき、逃げ回るので大変です。さあ、どうするか。犬の身体を抑える者、頭を固定する者、注射を打つ者と3人がかりで、家族総出で行いました。朝・夕3人揃わないと注射は打てないので、各人スケジュール調整が必要でした。最近では犬の方も慣れてきて、2人でも打てるようになっていきます。

インスリン注射は、原則として約12時間ごとに1日2回打つ必要があります。朝7時に打ったら、夕方7時に2回目のインスリン注射を打つという具合です。もし、時間をずらして昼頃に打つと、2回目は真夜中の0時頃に打つことになるので、都合の良い時間を選んで決めます。

当初この12時間の間隔はしっかり守って打っていました。夕方飲み会があると飲み会に遅れて行くという具合です。しかし、毎回遅れて行くわけにもいかず、動物病院の先生に相談すると、±2時間位はだいじょうぶとのこと。以来、出かける前の夕方5時ごろ打ったり、飲み会から帰った後9時ごろに打ったりしています。

病院の先生は、エサを食べさせてからインスリン注射をしてください。食べないで注射を打つと低血糖になり危険です、と言います。ところが、この犬は、なかなか食べないんです。糖尿病用のエサは最初から食べないし、食べそうなペットフードを買ってきて食べさせると最初は食べるのですが、すぐに飽きて食べなくなる。

普通の犬なら、エサを食べないでも放っておくとそのうちに食べるのですが、一定の時間に注射を打たなくては行けないので、そうはいきません。エサを食べさせないとインスリンは打てない、エサはなかなか食べない。先生に相談すると、何でもいからとにかく食べさせてください。種類とかカロリーとかバランスとか言っている場合ではありません。とにかく食べさせてください。そして今の体重は維持させてください、と。最も食べないのは朝のエサで、昨日はよく食べたエサでも今日は全く受け付けない。どうしたら良いか思い悩み、次から次に別のエサを買ってきて与える繰り返しでした。

冷静になって見ていると、エサの種類により食べ方が違うことが分かってきました。そこで、Excel で表を作り朝、昼、夕別に食べたエサ、食べないエサを表にして眺めてみると、朝によく食べるエサ、夕方しか食べないエサなど、エサの特徴がつかめてきました。この表を見ながらエサの名前別に一定の周期で選んで与えるようにしたところ、比較的によく食べるようになりました。

現在、エサの種類は 40 種類ほど買ってあって、毎日食べても飽きないエサ、1 日間隔でも飽きてしまうエサ、2～3 日ごとに与えるエサなどに分けて、毎回 6～7 種類を組み合わせています。それでも日によっては、全く食べない日もあり、毎回食べてくれるか心配しながら与えています。体調が良いときには、調子よく食べるので、量が多くなってしまい、翌日から翌々日に下痢をしてしまうことが分かりました。

普通エサは、1 日 2 回ですが、下痢しないように 1 回の量を適量にすると、1 日の合計量が少なくなるので、1 日の必要量を 3 回に分けて朝、昼、夕に与えるようにしたところ、便の状況は良くなりました。しかし、朝、昼、夕のエサ作りのため、今度は私の外出がしにくくなりました。或る日、散歩の後のエサはよく食べることが分かったので、最近では、朝 5 時ごろに散歩に出て 1 時間位で帰ってきて、犬の足などを洗ってからエサの準備をし、7 時ごろエサを与えてインスリン注射をしています。

2 か月毎に動物病院に連れて行き、血糖値の検査を行って、インスリンの量が適切かを診てもらいます。昨年の 2 月から朝 4 単位、夕方 3 単位で計 1 日 7 単位になり、最初から比べると 1 単位増えていきます。その後は現在までこの単位量を維持しています。

2 か月毎の検査結果で、「インスリンの量はこれまでと同じ朝 4 単位、夕方 3 単位で行きましょう」とか、「体重が前回と同じですね。頑張っていますね」と言われると毎日の奮闘が報われた気がしてほっとします。

東京下町の思い出・・・「へ」と「ハ」の字

ベイスайд 大澤 輝之

私は、戦後から社会人になるまで東京都墨田区吾嬬町というところで育ち、過ごしました。江東ゼロメートル地帯、下町のど真ん中です。

脳裏に沁みついていることは色々ありますが、多分じゃおの皆さんがご存じないと思うこと（ご存じだったらごめんなさい）をいくつか記したいと思います。

横浜市や川崎市をはじめ全国の大都市に走っていたトロリーバス、下町にも走っていました。現在でも海外では多く見られますが、日本では立山黒部アルペンルート¹の立山トンネルに残るだけになってしまいました。

東京のトロリーバスは 2 路線で江戸川区の今井から亀戸駅²を³通って上野公園までが最初で、昭和 27 年に開業、その後昭和 32 年までに品川—渋谷—新宿—池袋—三ノ輪—亀戸の明治通り沿い（当時は環状線道路と言っていました）と、支線の三ノ輪—浅草雷門が開業しています。これらは交通渋滞の影響や架線が邪魔者扱いされて、昭和 43 年までに全廃されています。（横浜市は横浜駅西口から三ツ沢まわり横浜駅西口までの環状線 9.5km でしたが、昭和 34 年から 47 年まででした。）

この明治通りの路線が私の家のすぐそばで、停留所がありました。そしてこれが日本でも唯一の珍しいトロリーバスだったのです。この路線は、品川から亀戸駅²の間に国鉄貨物線・東武本線・京成押上線・東武亀戸線と 4 か所も踏切⁴がありました。踏切では鉄道の架線とトロリーバスの 2 本の架線が交差することはできません（鉄道は直流 1500V、トロリーバスは直流 600V×2 本）ので、踏切の手前でバスが

トロリーポールを降ろして、車両に装備している小型のエンジンで自走して踏切を渡るのです。このエンジンが必要最小限のディーゼルエンジンで、バタバタと大きな音を出し、お客が満員の時は踏切の凸凹を渡るのも青息吐息という状態でした。

トロリーポールを降ろすのも、踏切通過後に上げるのも車掌さん（さすがに皆男の人でした）の仕事で、どんな天気の時でもバスの後ろまで降りて行って、トロリーポールのロープを引いて上げ下げをしていました。上げる時が特に大変で、細い架線に命中させるのがプロでもなかなか難儀な様子でした。私は東武亀戸線の踏切の停留所の近くでしたので、野次馬というか車掌さんの応援に行ったものです。

それがある時期から、トロリーポールの上げ下げが自動化されました。架線のところに、うまく表現できないのですが、ホームセンターに売っている塵取りを逆さまにしたようなものが取り付けられ、運転士さんが停車位置を間違えないで、適当にトロリーポールを上げれば、走り出すと塵取り様な物の「へ」の字形にガイドされて、うまく架線にポール^の集電部分がはまり込むようになりました。見事なアイデアでしたが、私の楽しみは減ってしまいました。でも一番ホッとしたのは車掌さんだったでしょう。

隅田川には美しい伝統のある橋が何本もありますが、その最下流に勝鬨橋^{かちどきばし}があります。最近更に下流に築地大橋というのが出来たようですが、この勝鬨橋はご承知のように、「可動橋」と云って橋の中央部が「ハ」の字形に開いて大きな船舶が通れるようになっています。昔は1日に5回位開閉していたのだそうですが、昭和28年頃から段々開閉回数が減ってきて、昭和45年には完全にロックされてしまいました。現在は国の重要文化財に指定されていて、絶対に開くことはないでしょう。

この開閉を良く見に行きました。終期では3日ぶりや一週間ぶりなんてことも多く、開くと橋の上の土やゴミがザザーッと落ちてきて一面砂煙の様になったことをよく思い出します。

私は錦糸町にある高校に通っていましたが、西向きの教室からは東京が遠くまで見渡せました。昭和30年代前半のことで、現在の様に高層ビルなど一つもありません。そこに大きな「ハ」の字形の鉄骨がぐんぐん伸びてきました。東京タワーです。芝での建設過程の一部始終を授業横目に、錦糸町から見届けることができました。

現在高校の近くには、高さ634mの東京スカイツリーが聳えています。軟弱地盤の典型と言われるゼロメートル地域にあんなものをオッ立ってて大丈夫なのかな？ と磯子の地から時々心配しています。

健康第一で

ベイサイド 大多和 國男

加齢による心身の変化を毎日思い知らされています。

身体面では動きが不自由になってきています。筋力の低下、柔軟性の低下、バランス能力の低下で、歩く速さも遅くなっています。精神面では昔のことを懐かしく想うようになってきています。昔住んでいたところは今どうなっているのだろう？ と行ってみたいくなったり、昔の写真を引っぱりだしたりしています。

亡くなる知人も多くなり淋しい気持ちになったり、自分もそろそろだと覚悟を決めるようになってきています。

今の願いは生きている間は自分のことは自分でできて、人の世話にならないでいることです。そのため、少しでも良い健康を保つことができるようにと、毎日少しでも続けるようにしています。

コロナ禍でどうしても家にいる時間が長くなりがちですが、じゃあの皆様も「健康第一」で過ごされますようお願いしています。

じゃお多摩・田園

久しぶりの撮影会～グラファーズ～

6月2日 撮影会

2月の神代植物公園での撮影会以降自粛していたが、そろそろ「東京アラート」解除の兆しに、多摩・田園のメンバー4名だけで恐る恐る近くの薬師池公園に集った。

開園の情報を知らないだけではないと思うが意外と来園者は少なかった。この時期、紫陽花と花菖蒲が出迎えてくれたものの、今一つ盛り上がりには欠ける思いがした。

マスクを着けての行動は気持ちの上で何となく病的でもありスッキリしない。そんなこともあり、朝方の雨上がりは願ってもない好材料である筈が何の前準備もしてなかった。どちらも雨が似合う花で何時もとは違う視点があったのに……。何時もの顔触れが揃わないと何とも寂しい、様子見程度の撮影会になってしまった。

昨年、工事が気になっていた所、薬師池に隣接して新しい公園がオープンしていたので寄り道してみた。草木が定着していないせいか、現状ではこれと言って評価するものを感じなかった。正式名称が「町田薬師池公園 四季彩の杜 西園」で、4月17日に開園したもののコロナ禍で6月1日にカフェ・レストランが、次週には順次、直売所、休憩所、体験工房、野外ライブ等の施設がオープンするらしい。オリンピック開催に合わせ、聖火リレーのスタート地点として建設されたものである。因みにゴールはシバヒロ（旧市役所跡）となっている。余談ながら町田は郊外に位置しながら丘陵型の公園が多様に思える。

撮影会と云うより久しぶりの外出は退化しそうな足腰にとって有意義であった。この辺りの公園は我が家のホームグラウンドでもある。久しぶりの顔触れに帰路スーパーで仕入れたシャンパンで再会の喜びを分かち合った。「断密？ No, No, No Problem！」 しっかりアルコールで消毒したものね……。

6月9日 14:00 品評会

インターネットを介しての品評会は3度目である。今回はコミュニケーションには使い慣れたLINEを利用して、出来るだけ劣化の少ない作品を観るために、事前に準備した共有クラウドに夫々のPC（パーソナルコンピュータ）でアクセスすることにした。グラファーズのメンバーはカメラのデジタル化に伴うこともあり概してPCには強い。PCとスマホ併用、2画面PC、Webカメラ、中には悦に入って音楽用の高性能マイクなんか使うものだからノイズまでリアルなこと、「プシュッ！」「未だまだ！」と言ったものの、「プシュッ！」「プシュッ！」これぞパンデミック、早くも反省会モードに……。でも真面目に品評会は終了。その証はこちらのギャラリーを覗いてやって下さい。



<https://jaoclub.com/tamaden/gallery/>

16:00 改めて反省会、何故かこの時間割はWeb以前と変わりなし、何とも几帳面なり。で、何を反省したのだろうか？「反省がないからかくも反省会が続く」と言った御仁がいる。蓋し明言なり。

(多摩・田園 山脇 哲郎 記・写真)

梅雨の晴れ間にラウンドを楽しむ～じゃお多摩・田園ゴルフ親睦会～

6月17日（水）は大秦野カントリークラブで第二回じゃお多摩・田園ゴルフ親睦会が行われました。長かった緊急事態宣言も解除になり、「ステイホーム」の一語に自粛生活を続け、疲れ果てた生活様式に限界を感じ始めた時期だったように思えます。それがやっと解放され、待望の野山での自由な活動、その空気のおいしさを思い切り味わうことのできる時が来ました。

新型コロナ感染症の影響を受け、梅雨のさなかに予定を組まざるを得なかった結果、予定通りに実施できるかどうかの状況でしたが、当日は幸いにも絶好の



ゴルフ日和に恵まれました。よくゴルフの楽しさはお天気次第と言われます。適度の気温と時折吹く風の心地よさは何回味わってもいいものです。

今回は2組8名でのラウンドでした。この時期練習もままならぬゴルファーたち、きっと自宅でクラブのグリップの感触だけは忘れないようにしていたのかもしれませんが。スターティングホールからのドライビングも見ていても気持ちよく振り切っている方も多くみられ、さすがに日頃のイメージトレーニングのたまものと感心させられました。

ゴルフ場の新型コロナ感染症対応も十分で、風呂はシャワーのみ、レストランはテーブルの間隔を十分に取り、テーブル上にはアクリル板で仕切りを入れて、対面での飛沫が届かない工夫を凝らしていました。

18ホールをしっかりと楽しんだメンバーはラウンド後、レストランでソフトドリンクを楽しみながら、当日のスコアのレビュー、プレイの反省（？）などお互いに久しぶりの会話を堪能いたしました。

また秋ごろにこのゴルフ親睦会を開催いたしますので、楽しみたい方はぜひ参加いただけますようお願いいたします。

（多摩・田園 千葉 敏行 記・写真）